地域支援だより
アシスト
天王みどり学園　支援部
令和7年12月22日
第4号

高等部の実践紹介

「自立と社会参加」を目指した実践的な就労支援・指導　『なりたい自分へ』

本校高等部では、卒業後の自立と社会参加に向け、産業現場等における実習「現場実習」を行っています。現場実習の目的は以下の２点です。

（１）自己の能力や適性などを知るとともに、社会人として必要な事項を身に付ける。
（２）卒業後を想定した活動を通して、勤労観や職業観の形成、進路の選択決定などに役立てる。

現場実習に当たっては、実習先に評価を依頼しています。実習後の振り返り学習では、「実習評価表」を活用しています。個別面談を実施しながら評価内容を今後の目標設定に生かしたり、設定した目標を複数の職員で共有し生徒の課題や成長を見取ったりしています。今号では、実習先や実習評価表の活用例についてご紹介します。

＜段階的な現場実習＞

就業体験
形　態：１～３日間の見学や体験
ねらい：生徒の職場や職業への理解を深める

↓

現場実習
形　態：１～２週間または定期で実施
ねらい：適性把握／力試しと力量向上／課題発見と解決

↓

雇用相談実習
形　態：必要な日数を相談の上実施
ねらい：雇用の可能性見極め／雇用形態や条件等の相談／雇用前提での技能等の向上

＜実習先での作業（例）＞

実習先での作業（一例）
◆製造……組立、梱包、運搬
◆衣料品販売……商品整理、品出し
◆スーパー……袋詰め、仕分け、計量
◆病院・施設……介助補助、清掃、配膳
◆クリーニング…たたみ作業、結束
◆事務・物流……ＰＣ入力、発送補助

＜「実習評価表」の活用例＞

実習先からは、主に以下のような内容について、「よい・普通・努力してほしい・改善が必要」の４段階で評価をしていただいています。

生活に関する評価	対人関係に関する評価
□勤務状況（毎日勤務できたか） □健康維持 □身だしなみ、物の管理 □規範（決まりを遵守できるか）等	□挨拶・返事 □言葉遣い □お礼、謝罪 □意思の表明　　等
作業面に関する評価	**態度面に関する評価**
□正確性（正しく正確に） □安定性（むらなく） □理解力（仕組みや状況理解） □持久力（作業に必要な体力）等	□積極性、自主性 □物品の扱い □時間厳守 □報告・連絡・相談・質問　等

上記の内容に加えて、実習中の様子から、気になる点や課題等も客観的に記入していただいています。

例）自分から周囲に質問や相談ができると作業効率が上がると思います。
作業時間の後半も丁寧さを持続できるとよいと思います。

実習後の生徒の振り返りポイント！

＊実習日誌から目標の妥当性を振り返る。
＊評価表の特記事項を参考に課題や成果を端的に伝える個人面談等の設定。
＊評価表に現れた課題や改善点を生活目標や作業学習の目標に生かす。
＊設定した目標は、担任、各授業担当者と共有し、複数の職員でフィードバッグする。

これらの評価と生徒自身の自己評価、巡回訪問時の様子、実習先と共有した情報などを基に振り返りを行い、具体的な改善案を整理し、その後の学校生活や次回の実習、卒業後の就労や生活につなげています。

例）自分から周囲に相談できるように･･･
→実際の場面を想定し、誰にどのような言葉を用いて相談するとよいか、具体的に整理する。整理したことを基に、日常場面において、機会を捉えて教師や友達に相談する実践を積む。

例）作業の時間いっぱい丁寧さを持続できるように･･･
→作業学習で、作業時間の後半も丁寧に製作作業を進めることを目標として取り組んでみる。丁寧さの持続が難しくなってきたら、どうするかを具体的に相談し、実践してみる。

＜参考＞「特別支援学校における進路指導ガイド〈第 10 版〉」https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/40524

外部専門家と連携した自立活動の指導

学習指導要領解説自立活動編では、「自立活動の個別の指導計画の作成や指導に当たっては、専門の医師及びその他の専門家との連携協力を図り、適切な指導ができるようにする（第７章自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取り扱い）」とあります。

本校では自立活動の指導に生かすため、秋田大学及び福祉施設に所属する作業療法士（OT）、理学療法士（PT）、言語聴覚士（ST）の計３名に「外部専門家」として来校いただき、専門的見地による授業参観と指導助言の機会を設けています。

自立活動において、外部専門家の専門的な見地から助言を得て支援している事例を紹介します。

本校の生徒Ａさんの願いの一つに「相手や周りのことを考えて話すことを頑張りたい。」とあります。Ａさんは委員会活動や発表などの役割に積極的で、先輩や友達と会話を楽しむことができます。早口になると聞き取りづらいことがあり、本人も「かんでしまう。」と気にする様子が見られます。

生徒の実態や様々な状況から、自立活動の目標は「相手に伝わるような話し方（発音、速さ）で話す。」と設定しました。具体的な指導内容がいくつかある中で、「早口で聞き取りづらい」ところへの指導については担任も悩んでおり、また本人も「話すことが上手になりたい。」という希望があったことから、外部専門家を活用し、助言を得ることにしました。言語聴覚士（ST）に授業参観や指導助言をしていただき、口腔トレーニングについてメニューを提案してもらいました。

「早口で聞きとりづらいことがある生徒の口腔トレーニングについて」

〔言語聴覚士（ST）より〕

「健康観察」が「ケンコウカンスツ」、「挨拶」が「アイスツ」に聞こえるなど、「サ行＋タ行」に話しづらさがある。舌の筋力、動かし方に課題があり、早口や不明瞭さにつながっている。

→舌先の動作向上につながる毎日の口腔トレーニング

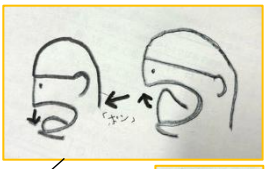
①舌全体を口蓋に押し当て勢いよく離す舌打ち動作を１０回×３セット

②上前歯裏からスタートし、軟口蓋まで舌先でなぞってなめる動作を１０回×３セット

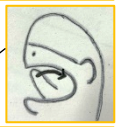
③口唇の内側をぐるっとなめる、時計回り・反時計回りを１０回×２セット

※対象生徒の実態に応じ、継続しやすい形で提案されたもの

①



②



③

口腔トレーニングメニューをプリントにして、学校や家庭で取り組むことができるようにしました。

自立活動としては「発表場面や他者とのやり取りを振り返り、場に応じた話し方に気付く。」など発音以外の指導内容とも組み合わせています。実際に、生活単元学習の学習活動や委員会の活動などを通して振り返りをし、「ゆっくり話すことで、相手に伝わった」などの経験とつなげるようにしています。

Ａさんは毎日自主的にトレーニングに取り組みました。定期的に言語聴覚士（ST）から助言をいただく中で、舌の動きがよくなってきたと言われたり、自分でも「続けていたら、前よりもかまなくなったと思う。」と話したりするなど、本人の自信につながったようです。学園祭では、せりふを早口にならないように気を付けて、自信をもって話す様子が見られました。

専門的な見地から助言を得ることで、本人の願いにもつながる、自立活動の指導に生かすことができました。今後も外部専門家と連携しながら指導していきたいと考えています。

秋田県立支援学校天王みどり学園

TEL:018−870−4611　FAX:018−870−4612

教頭:渡部 陽子　教育専門監:小野 直子　支援部:遠藤 美和子

特別支援教育地域センター(男鹿市立船川第一小学校内):月・水・金

TEL:0185−24−3231

特別支援教育アドバイザー〔小松 美幸〕